

～北茨城市での過去5年間の熱中症搬送人数について～

令和7年は、気象庁の統計開始以来、多くの地域で過去最も早い梅雨明けとなったほか、日本の夏（6～8月）の平均気温も過去最高を記録しました。熱中症警戒アラートの発表回数も過去最多となり、記録的な酷暑が長期間続きました。

その影響で、5月から9月までの全国の熱中症による救急搬送人員は累計100,510人に達し、調査を開始した平成20年以降で最多となりました。

「関東で一番涼しい町」とされる北茨城市においても、令和5年をピークに搬送件数は微減傾向にあるものの、依然として予断を許さない状況です。今年もさらなる猛暑が予想され、救急要請の増加が懸念されます。市民の皆様におかれましては、例年以上の熱中症予防と体調管理に努めていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

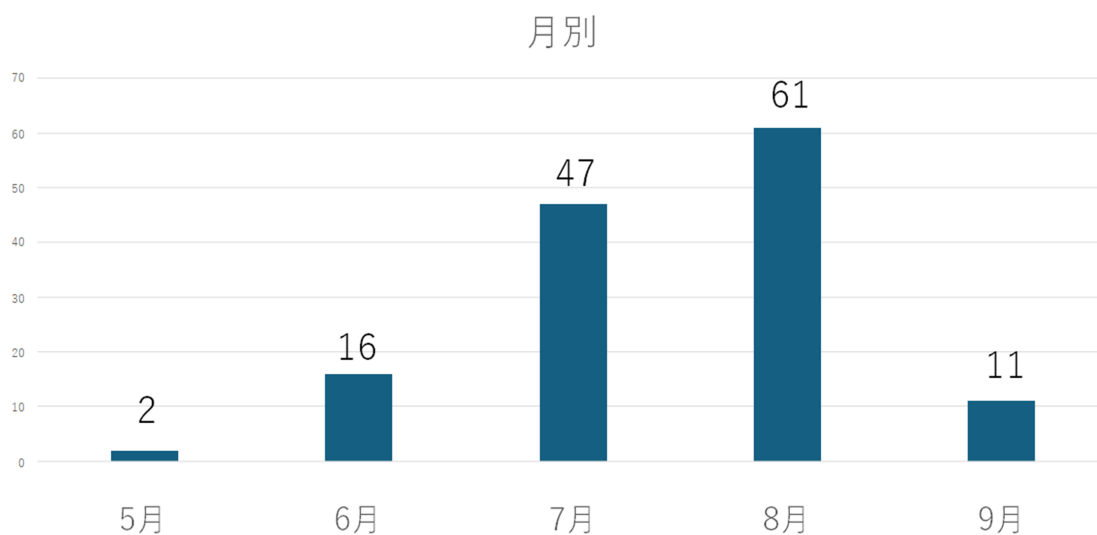
北茨城市における熱中症の救急搬送状況（年齢区分・傷病程度・発生場所別）の内訳は以下の通りです。

- ・年齢区分別：高齢者（65歳以上）が最も多く、次いで成人（18歳以上65歳未満）少年（7歳以上18歳未満）の順となっています。
- ・傷病程度別：軽症が最も多く、次いで中等症、重症の順となっています。
- ・発生場所別：住居（自宅内）が最も多く、次いで公衆の出入りする場所（屋外）仕事場（屋外作業場など）の順となっています。



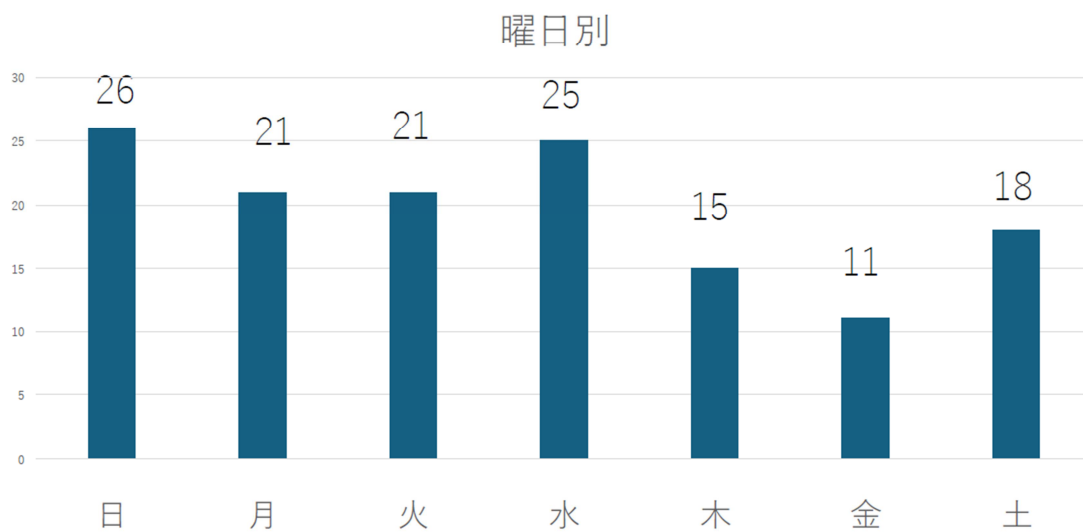
1、月別搬送人員

全国のデータと同じく北茨城市でも 8 月に向けて搬送人員が最も多くなる傾向があります。



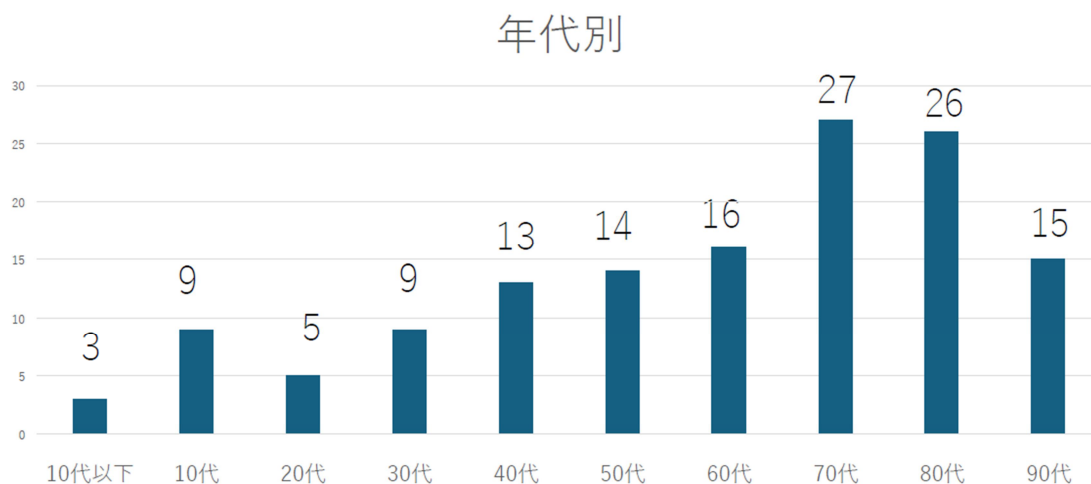
2、曜日別搬送人員

日曜日が多く、週の前半にかけ微減しつつ、ほぼ横ばいで推移しています。



3、年代別搬送人員

特徴として、10代～20代は屋外での運動中、30代～60代は屋外での作業中、そして70代以上は畑仕事や草刈り中の発生が目立っており、これらで全体の過半数を占める状況となっています。



4、時間帯別搬送人員

熱中症は「時間帯」によって発生状況が異なります

北茨城市の救急搬送の状況を見ると、ライフスタイルによって熱中症が発生する時間帯に特徴があります。

朝（7時～9時頃）：70代以上の方に多い

状況：早朝からの畑仕事や草刈りを行い、帰宅した直後に体調を崩すケースが目立ちます。

注意：「朝だから大丈夫」と過信せず作業中だけでなく帰宅後もしっかりと休息と水分をとりましょう。

日中（10時～16時頃）：幅広い世代に多い

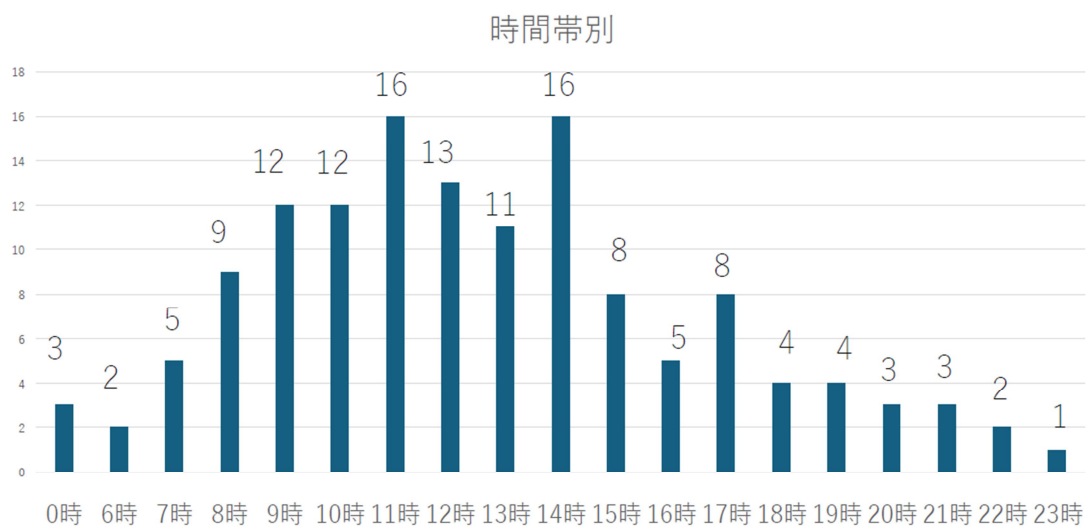
状況：気温の上昇とともに10時頃から搬送が増え始め12時前後にピークを迎えます。

注意：お昼休憩の直後や午後の最も暑い時間帯は、屋外での活動や無理な作業を控えてください。

夕方以降（17時～）：仕事終わりの方は要注意

状況：仕事中に感じた体調不良を我慢して帰宅し、その後悪化してしまうケースが多く見られます。

注意：帰宅後にアルコールで水分補給をすると脱水症状を助長し症状が悪化します。



参考資料

総務省消防庁

一般財団法人日本気象協会 HP「熱中症ゼロへ」

日本赤十字社 救急法テキスト 等